

区 分	まちづくり科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	地理学					授業形態
英 訳	Geography					単独
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 地理学の見方・考え方を具体的な現象や事例を通して学ぶ。						
【授業の到達目標】 1. 地理学の基本的な見方・考え方ができるようになる。 2. 地図の読図、主題図の作成と分析ができるようになる。						
【授業の概要】 本講義は、わが国および世界の諸地域の地域的特色を理解する枠組みとして、地理学の方法論（視点・基本的な概念・方法）について、その概要を解説する。内容は、「地理学の基本的な見方」、「様々な地図と地理的技能」から構成される。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンスー地理学学習の準備と講義概要説明 第 2回 地理学の見方と考え方 第 3回 地図と世界観ー地図の歴史① 第 4回 地図と世界観ー地図の歴史② 第 5回 地図と世界観ー地図の歴史③ 第 6回 地図と世界観ー地図の歴史④ 第 7回 地図の活用ー主題図の活用と読図 第 8回 地図作業（地形図を用いた土地利用図の作成）① 第 9回 地図作業（地形図を用いた土地利用図の作成）② 第 10回 地図作業（地形図を用いた土地利用図の作成）③ 第 11回 土地利用の分析① 第 12回 土地利用の分析② 第 13回 土地利用の分析③ 第 14回 土地利用についての解説 第 15回 まとめと到達目標の確認						
【テキスト】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書・参考資料等】 上野和彦ほか編著『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店（2015年）						
【成績評価の方法等】 課題提出（40%）、レポート提出（40%）、小テスト（20%）で評価する。						
【履修要件等】 学期の後半で土地利用図を作成するので、12色以上の色鉛筆を準備しておくこと。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	人文地理学					授業形態
英 訳	Human Geography					単独
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 人文地理学の視点、概念、方法について学ぶ。						
【授業の到達目標】 1. 人文地理学の一般的知識と思考方法を身につけることができる。基本的な見方・考え方ができるようになる。 2. 人文地理学に対する一般的関心を高める。						
【授業の概要】 本講義は、人文地理学の視点、概念、方法について解説する。内容は、主に都市構造と農業・工業の立地論メンタルマップ、タイムジオグラフィーから構成される。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス—講義概要説明 第 2回 都市の内部構造① 第 3回 都市の内部構造② 第 4回 都市の内部構造③ 第 5回 都市の内部構造④ 第 6回 農業の成立と立地① 第 7回 農業の成立と立地② 第 8回 農業の成立と立地③ 第 9回 工業の成立と立地① 第 10回 工業の成立と立地② 第 11回 知覚の地理① 第 12回 知覚の地理② 第 13回 生活行動の地理① 第 14回 生活行動の地理② 第 15回 まとめと到達目標の確認						
【テキスト】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書・参考資料等】 上野和彦ほか編著『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』朝倉書店 (2015年)						
【成績評価の方法等】 授業中の課題 (70%)、小テスト (30%) で評価する。						
【履修要件等】 人文地理学に関心を持ち、積極的に取り組むことが望まれる。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	地域社会論					授業形態
英 訳	Regional Society					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】						
地方・地域の活性化についての著書・論文・論説等を読み、それぞれ論理・主張を理解し、受講生自身が当該問題について思索し、カリキュラムポリシーにある「地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力」の修得を目的とする。						
【授業の到達目標】						
現在の日本の地方・地域社会の実態の理解や、これに関わる政策構想における論点を理解できることを第1の目標とする。合わせて、それぞれの地域の実情に沿った政策提言ができる能力の獲得を目指す。						
【授業の概要】						
地方あるいは地域の活性化のため、さまざまな議論（地方消滅論・田園回帰論など）が繰り返されている。それぞれの議論と地方・地域の実態や政策課題などについて理解を深め、深い認識を前提とした政策提言力が身に付けられる授業である。						
【準備学習(予習・復習)】						
講義を受講する前にテキストを事前に通読することが求められる。合わせて、新聞等のニュースの中で地域社会に関わる情報を把握することも必要である。						
【授業計画】						
第 1回 増田寛也レポート「地方消滅」論の登場とそれをめぐる論争について概説する。						
第 2回 増田レポートの論理構造について、テキストを用い解説する（人口減少社会について）。						
第 3回 前回到引き続き、増田レポートについて解説する（人口のダム機能論について）。						
第 4回 前回到引き続き、増田レポートについて解説する（「選択と集中」論について）。						
第 5回 前回到引き続き、増田レポートについて解説する（「選択と集中」論について）。						
第 6回 増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘①）。						
第 7回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘②）。						
第 8回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘③）。						
第 9回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（岡田知弘④）。						
第 10回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美①）。						
第 11回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美②）。						
第 12回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美③）。						
第 13回 前回到引き続き、増田レポート批判論文の検討を行う（小田切徳美④）。						
第 14回 まとめ①						
第 15回 まとめ②						
【テキスト】						
増田寛也編著『地方消滅』中公新書（2014年）、岡田知弘「『自治体消滅』論を超えて」自治体研究社（2014年）、小田切徳美「『農山村は消滅しない』」岩波書店（2014年）						
【参考書・参考資料等】						
なし						
【成績評価の方法等】						
小テストを複数回実施するのでその成績（70%）と期末試験成績（30%）を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【履修要件等】						
日本の地方・地域問題に関心を持っていることが履修の最低要件である。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	観光と地域					授業形態
英 訳	Tourism and Region					単独
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 観光地域の形成と現状および課題について具体的な事例を通して学ぶ。						
【授業の到達目標】 1. 観光に関する用語や地域事象を理解し、観光地域の特性と問題点を指摘できる。 2. 地域の自然的・人文的資源を活用した観光の多様性について理解することができる。						
【授業の概要】 本講義は、観光地域の形成と現状および課題について具体的な事例を通して解説する。観光が地域の地形・気候・植生などの自然環境や、歴史・伝統文化・産業などの人文資源を活用して成立していることを理解する。また地域が観光をどのように活かしていくのか、広島県を事例に考える。前半は講義形式で授業を行うが、後半は3～4人のグループにより広島県の観光を取り巻く課題を検討し、発表をしてもらう。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配布プリントを整理し、内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス—講義概要説明 第 2回 観光の概念 第 3回 観光地域のあり方 第 4回 温泉観光地域① 第 5回 温泉観光地域② 第 6回 自然観光地域① 第 7回 自然観光地域② 第 8回 農村観光地域 第 9回 歴史観光地域 第 10回 都市観光地域 第 11回 広島県の観光の強み・弱み 第 12回 広島県の観光戦略 第 13回 モデル地域の地域振興と観光での課題① 第 14回 モデル地域の地域振興と観光での課題② 第 15回 まとめと到達目標の確認						
【テキスト】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書・参考資料等】 山村順次編著『観光地理学—観光地域の形成と課題（第2版）』同文館出版（2012年）						
【成績評価の方法等】 課題提出（50%）、授業への取り組み（30%）、小テスト（20%）で評価する。						
【履修要件等】 学期の後半で土地利用図を作成するので、12色以上の色鉛筆を準備しておくこと。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	地域経済論					授業形態
英 訳	Regional Economics					単独
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】						
戦後日本の地方都市及び農山漁村の変貌過程を、それに圧倒的な影響を与えてきた資本主義構造の特殊性を踏まえて理解し、カリキュラムポリシーにある「地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力」の基礎の修得を目的とする。						
【授業の到達目標】						
戦後日本の地方都市及び農山漁村の衰退は単にそれぞれの地域の問題のみならず、20世紀以降の世界と日本の政治・経済の大きなうねりの中で起こっている。本授業の到達目標は、このような問題について受講生なりの判断ができる水準まで理解を深めることにある。						
【授業の概要】						
戦後日本の地方都市及び農山漁村の衰退について、世界の資本主義の展開との関連で議論を進め、その中で地方・地域経済の中核的存在である農業が抱える問題を解き明かす。と同時に、農業と地方・地域経済再生をめぐる1980年代に活躍した研究者がどのように捉えたかについて批判的に検証する。						
【準備学習(予習・復習)】						
講義を受講する前にテキストを事前に通読することが求められる。合わせて、新聞等のニュースの中で経済と農業に関わる情報を把握することも必要である。						
【授業計画】						
第 1回 保志恂の地域経済論・日本資本主義論について概説する(総論)。						
第 2回・第 3回 保志恂の地域経済論・日本資本主義論について概説する(保志恂の日本資本主義の捉え方)。						
第 4回 保志恂の地域経済論・日本資本主義論について概説する(保志恂の農業論・地域経済再生論①)。						
第 5回 保志恂の地域経済論・日本資本主義論について概説する(保志恂の農業論・地域経済再生論②)。						
第 6回 田代洋一の地域農業再建論について概説する(総論)。						
第 7回 田代洋一の地域農業再建論について概説する(農民自治論①)。						
第 8回 田代洋一の地域農業再建論について概説する(農民自治論②)。						
第 9回 田代洋一の地域農業再建論について概説する(担い手論①)。						
第 10回 田代洋一地域農業再建論について概説する(担い手論②)。						
第 11回 磯辺俊彦の地域農業再建論について概説する(総論)						
第 12回 磯辺俊彦の地域農業再建論について概説する(高度経済成長と日本農業①)。						
第 13回 磯辺俊彦の地域農業再建論について概説する(高度経済成長と日本農業②)。						
第 14回 磯辺俊彦の地域農業再建論について概説する(高度経済成長と日本農業③)。						
第 15回 まとめ						
【テキスト】						
磯辺俊彦ほか編著『変革の日本農業論』日本経済評論社(1986年)						
【参考書・参考資料等】						
なし						
【成績評価の方法等】						
小テストを複数回実施するのでその成績(70%)と期末試験成績(30%)を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【履修要件等】						
日本の地方・地域問題または農業問題に関心を持っていることが履修の最低要件である。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	フードシステム					授業形態
英 訳	Food System					単独
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 グローバル化した「食」の供給・消費の仕組みや、地域の役割について考える。						
【授業の到達目標】 1. フードチェーンおよびその地理的投影という食料の地理学の基本的な考え方を理解し、説明することができる。 2. 食料の地理学の基本的な考え方をふまえ、食料にかかわる問題を読み解く能力を体得する。 3. 現代世界のさまざまな食料問題について関心を持つ。						
【授業の概要】 私たちが口にしてしている食料は、地球のどこかで生産・獲得されたものである。食料が生産された場所と消費された場所とを線で結んでみれば、そこから距離や流通量、あるいは途中に介在しているもの、食文化などが見えてくる。本講義は、経済事象である農業に焦点をあて、「食」を通じた供給・消費の仕組み（フードチェーン）や、こうした仕組みにかかわるより広範囲な仕組み（フードシステム）について、地理学的なとらえ方と身近な話題から学ぶ。内容は、フードチェーンやフードシステムなどの基本的な考え方や、食料にかかわる視点を整理して、具体的な食料に関する問題を取り上げる。講義では、鍵となる概念について説明した上で、講師が調査地で撮影した写真や関連するドキュメンタリー番組等を見せながら、受講生が具体的に講義テーマを理解できるようにしたい。						
【準備学習(予習・復習)】 各回の授業終了後、次回の授業に関する団体や記事等のウェブサイトを告知するので、それを読み予習すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンスー講義概要説明と食料の地理学の基礎 第 2回 フードチェーンの地理的拡大と食料の量と質 第 3回 食のグローバル化とアグリビジネス 第 4回 グローバル化に対抗する地域ブランド 第 5回 食料問題をどうとらえるか（1）グローバルスケール 第 6回 食料問題をどうとらえるか（2）ナショナルスケール 第 7回 食料問題をどうとらえるか（3）ローカルスケール 第 8回 ファストフードと食文化ー台湾の食文化を伝承する屋台文化 第 9回 食のグローバル化ーバナナの生産と消費 第10回 グローバル化と食の安全ー台湾の日本向けマンゴー産業 第11回 グローバル化と生産地域のあり方ー台湾の日本品種ナシ栽培 第12回 グローバル化と国際リレー栽培ー台湾のコショウラン産業 第13回 都市農村交流 第14回 食品産業の展開とフードシステム 第15回 まとめと到達目標の確認						
【テキスト】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書・参考資料等】 荒木一視編『食料の地理学の小さな教科書』ナカニシヤ出版（2013年） 高柳長直『フードシステムの空間構造論ーグローバル化の中の農産物産地振興』筑波書房（2006年）						
【成績評価の方法等】 授業中の課題（70%）、小テスト（30%）で評価する。						
【履修要件等】 本授業に関する基礎的な知識を有する者。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	多様性と共生のまちづくり					授業形態
英 訳	Diverse Community Development					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】						
地域社会において多様な世代、国籍、文化、価値観、職業などの背景をもつ人びとがくらし働いていることを知り、これらの人びとが直面している問題や課題を理解し、くらしやすい生きやすい地域社会を実現するための問題解決と課題遂行の手法を修得する。						
【授業の到達目標】						
都市や農村、中央や地方など、身近な地域から広域的な範囲にわたる地域にわたる地域社会について、国際的な視野で理解することを通じて、今日の地域社会とまちづくりの問題と課題を知り、問題点の解決と課題の遂行の方策について説明できるようになる。						
【授業の概要】						
地域社会の歴史とその理論を生産力と社会発展の関連のなかまに位置づけて説明し、今日の地域の問題や課題を提示し、その解決や方向性を展望する。とくに、多様な人たちが共生するようになった現代社会とまちづくりの諸問題と課題について社会・経済・政治・文化構造に着目しながら説明し、問題解決と課題遂行の展望を探る。 授業はケース・スタディを交えながら、講義と教材(写真やビデオなど)の視聴、討議で構成する。						
【準備学習(予習・復習)】						
事前に配付する資料に基づいて次回の授業内容を把握し、地域社会やまちづくりに関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】						
第 1回 地域文化の差異と共生－世界遺産と世界無形遺産						
第 2回 世界遺産と景観－原爆ドーム周辺の景観問題を考える－						
第 3回 景観の価値と地域社会－鞆の浦とドレスデン(ドイツ)の景観問題－						
第 4回 地域開発と環境・景観						
第 5回 文化多様性の地域原理						
第 6回 カルチュラル・スタディーズ						
第 7回 文化現象の地域的連関－祭りの移動と受容－						
第 8回 文化多様性と多文化共生－文化観の差異と地域住民の選択－						
第 9回 地域社会の主体と主体形成－地域活性化、まちづくり－						
第10回 まちづくりと住民の参画						
第11回 経済成長(社会発展)における開発と環境の選択						
第12回 現代における生物資源をめぐる食糧とエネルギーの選択⇒HOME 視聴						
第13回 地域社会と生活様式－資源の争奪「環境か資源か食糧か」						
第14回 社会の構造とシステム展開						
第15回 共生社会－多文化共生と多自然共生の地域社会を創造する						
【テキスト】						
使用しないが、資料を事前に提供する。						
【参考書・参考資料等】						
授業で適宜紹介する。						
【成績評価の方法等】						
各回の課題(レポート提出)(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【履修要件等】						
とくにない。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	ツーリズム論					授業形態
英 訳	Theory of Tourism					単独
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】 本授業では、農村ツーリズム運動を取り上げ、この運動が発生してきた背景を、戦後日本の農山村の変貌と住民の地域再生に向けた取り組みの中で把握し、その意義および課題を学ぶ。これらを通し、カリキュラムポリシーにある「地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力」の基礎を修得することが本授業の目的である。						
【授業の到達目標】 当大学もその中に属する中国山地は広範な中山間地を持ち、日本の他地域に先駆けて過疎の問題を発生させてきた歴史を持つ。したがって、当大学の学生は身近な問題として農山村の問題を考えられる素地がある。本授業を通し、自らの地域の再生戦略を構想できる力を身につけることが目標となる。						
【授業の概要】 本授業では、近年農山村の再生問題を研究している2名の研究者の著作を主として取り上げ、農山村の変貌や再生の運動、その意義や課題について概説する。						
【準備学習(予習・復習)】 講義を受講する前にテキストを事前に通読することが求められる。合わせて、新聞等のニュースの中で農山村問題に関わる情報を把握することも必要である。						
【授業計画】 第 1 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（総論）。 第 2 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（農山村経済の変貌）。 第 3 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（過疎問題と村おこし運動）。 第 4 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（リゾート開発と農山村） 第 5 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（農村ツーリズム運動の登場①） 第 6 回 佐藤真弓の農山村経済論について概説する（農村ツーリズム運動の登場②） 第 7 回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（総論）。 第 8 回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（農山村再生の基本的視点）。 第 9 回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（地域づくりの戦略①）。 第10回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（地域づくりの戦略②） 第11回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（地域づくりの戦略③） 第12回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（都市農村交流事業①） 第13回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（都市農村交流事業②） 第14回 小田切徳美の農山村再生論について概説する（地域支援） 第15回 まとめ						
【テキスト】 小田切徳美編『農山村再生に挑む』岩波書店（2013年）						
【参考書・参考資料等】 なし						
【成績評価の方法等】 小テストを複数回実施するのでその成績（70%）と期末試験成績（30%）を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【履修要件等】 日本の地方・地域問題に関心を持っていることが履修の最低要件である。						

区 分	まちづくり科目	担当教員	池本 良教		
授業科目	地域連携論				授業形態
英 訳	Regional Collaboration				単独
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】					
人や組織が地域社会の中で、経済や社会、教育や福祉、自然環境・社会環境、まちづくり、開発などの地域の問題・課題に関して取り組んできた社会貢献・地域連携の歴史、理論、事例について知識や手法を修得し、地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力を修得しその主体となる。					
【授業の到達目標】					
社会貢献・地域連携の歴史、理論、事例について知識や手法を修得し、その成果、問題・課題・展望を検討することを通じて、社会や会社のどの組織のなかで社会貢献・地域連携の主体となるための実践力を身につける。					
【授業の概要】					
社会貢献・地域連携の歴史、理論、実践として、社会発展との関連で理解することを通じて、その問題、課題、展望を検討する。授業は講義・教材(写真やビデオなど)の視聴と討論などで構成する。					
【準備学習(予習・復習)】					
事前に配付する資料に基づいて次回の授業内容を把握し、日常的に、社会貢献・地域連携に関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、授業を経て学修内容をまとめる。					
【授業計画】					
第 1 回：共同・協同・協働					
第 2 回：社会発展とネットワーク－Social Capital の意義					
第 3 回：組合・学生運動・組織と連帯					
第 4 回：産官学共同・企業メセナ・フィランソロピー・CSR					
第 5 回：セツルメント・患者組織と患者団体・公害運動と環境活動					
第 6 回：地域医療・地域福祉					
第 7 回：国際連盟と国際連合・国際協力					
第 8 回：国際交流と国際化					
第 9 回：まちづくりとむらおこし					
第 10 回：都市農村交流・地域間交流・国際交流					
第 11 回：主体と文化の多様性					
第 12 回：ネットワークと共生					
第 13 回：多面的機能と多面的活動					
第 14 回：大学や研究・教育機関の連携組織					
第 15 回：社会貢献と地域連携					
【テキスト】					
使用しないが、資料を事前に提供する。					
【参考書・参考資料等】					
授業で適宜紹介する。					
【成績評価の方法等】					
各回の課題(レポート提出)(40%)と期末試験(60%)で評価する。					
【履修要件等】					
とくにない。					

区 分	まちづくり科目	担当教員	山本昌弘			
授業科目	地域産業論					授業形態
英 訳	Regional Industry					単独
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の目的】						
本講義では、大都市地帯ではない「地方」の主要な産業である農業の社会経済的な側面について概説する。とりわけ西南日本の近代農業の展開の中で重要な位置を占めてきた米産業と柑橘産業を取り上げ、この2部門の戦後の変貌過程を明らかにし、カリキュラムポリシーにある「地域が抱える課題やその解決策を提示することができる力」の基礎の修得を目的とする。						
【授業の到達目標】						
米については、農業政策のあり様に規定されながら展開してきた側面が強いので、米産業と農業政策の関係を理解することが第1の到達目標とする。一方、柑橘は農業政策の対象から外れたところで展開した点にひとつの特徴がある。ここでも、そのような環境における柑橘産業の把握が第2の到達目標となる。						
【授業の概要】						
本授業の前半では、近代農業の中核である米産業について、その上層農家の形成を中心に理論的かつ歴史的に概括する。後半では、柑橘産業の展開について柑橘農法論の視点で概括する。						
【準備学習(予習・復習)】						
講義を受講する前にテキストを事前に通読することが求められる。合わせて、新聞等のニュースの中で農業に関する情報を把握することも必要である。						
【授業計画】						
第 1 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (総論①)。						
第 2 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (総論②)						
第 3 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (農地改革後の稲作上層農)。						
第 4 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (年雇経営論)。						
第 5 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (北海道の上層農)						
第 6 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (蒲原の上層農①)						
第 7 回 宇佐美繁の稲作上層農家論について概説する (蒲原の上層農②)						
第 8 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (総論)。						
第 9 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘作農法論①)。						
第 10 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘作農法論②)。						
第 11 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘生産の地帯構成論①)。						
第 12 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘生産の地帯構成論②)						
第 13 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘産地再編論①)。						
第 14 回 相原和夫の柑橘農業論について概説する (柑橘産地再編論②)。						
第 15 回 まとめ						
【テキスト】						
宇佐美繁著『農民層分解と稲作上層農』筑波書房 (2005年)、相原和夫著『柑橘農業の再編と課題』時潮社 (1990年)						
【参考書・参考資料等】						
なし						
【成績評価の方法等】						
小テストを複数回実施するのでその成績 (70%) と期末試験成績 (30%) を成績評価の基本としつつ、受講態度評価を加味して総合的に判断する。						
【履修要件等】						
日本の地方・地域問題または農業問題に関心を持っていることが履修の最低要件である。						